

研修を終えて

山形県立米沢興譲館高等学校
向田智弘

1. 教師海外研修に参加しての所感、学びの点、変化

2023年の4月だったでしょうか。JICAの教師海外研修モザンビークの情報を目にし、家族と相談し、職場の上司と相談し、応援してもらい、応募を決意し、慌ただし中必要な書類を準備し、参加できることになったのは。少し緊張しながら、第1回の事前研修に参加し、志ある同志たちと出会い、予防接種で新潟に行き、オンラインでしか会っていなかったハイスペックな同志と出会い、第2回の事前研修で友情と緊張感を高め、いざ成田へと行ったところで、まさかの飛行機の整備不良にてフライトは翌日に。直前までの職場での激務がたたリ、深夜12時に入ったホテルの一室で高熱(39℃)が出て、まさかの成田から自宅に直帰(コロナ感染判明)。団長という役目を全うできず、無念の撤退となった時の衝撃は、高校最後の1点差で負けたバスケの試合や大学時代の大失恋、大学時代となりに住んでいた変態さんに詰め寄られた件にも匹敵する人生の中でも指折りのものでした。

それはさておき、事前研修やみなさんの帰国後の事後研修にも参加させて頂いたことは、モザンビーク研修の100分の1程度かもしれませんが、大変勉強になりました。そのことを簡潔にまとめて、私の報告書といたします。

JICAの事前研修は、教員歴25年以上にもなる自分にとっても大変学びのあるものでした。多様なアイスブレイキングの手法、参加型アクティビティ、価値観の文化比較ができるダイヤモンドランキングなどたくさんの学習手法を体験を通して学ぶことができました。

事後研修では、モザンビークで研修したことを授業に落とし込み、生徒たちに還元する授業の開発でした。トップダウンで価値観や情報を伝えることにならないように、生徒たちが主体的に考えて、結論へと導いていくボトムアップの仕掛けをみなさん上手に構築されていました。これらは参加したみなさんの報告書にある通りです。教科を超えての授業研究であったことが、とても新鮮で楽しかったことを覚えています。

ここで私が特に注目したことは、授業の工夫そのものとは別に、「モザンビークに行ったことがあるという事実」が、授業者の言動そのものに自信と誇りが付与されているように感じたことです。めったにできないこうした体験こそが、その人とその人が行う授業や言動に付加価値をつけるのではないのでしょうか。そしてその付加価値こそが、次の世代の子どもたちを海外に目を向けさせ、支援を必要とする人々の生活に関心を持たせ、何かできるのではないかと考えさせる鍵なのかと感じ始めました。海外支援に行けるだけの時間と機会、財産を持っていたとしても、それを実行に移す人とそうでない人がいて、それを分けるものは何なのかを知りたいというのが今回申し込んだ理由の一つだった自分にとって、少し答えが見えた瞬間でした。

2. 今後の取組みについて

これまでもある程度の開発教育に携わってきましたが、今後は、JICAのスタッフの方々や研修で指導して下さった助言者の方々との素敵な出会いを活かし、支援を頂きながら、より高い次元で国際支援、協力について考え、行動に移せる人材の育成をしていこうと考えています。そうした仕掛けは特別な授業ではなく、普段の授業の中に取り入れられるものでもあると信じています。

最後に、素晴らしい出会いと学びの機会を提供してくださいましたJICAのスタッフの皆様とチームモザンビークの皆様大変ありがとうございました。